

1

- 1 (a) (2) (b) (4) (c) (3) (d) (3) (e) (1)  
 2 (c)(e)(g)(h)

2

- (1) 1 番目 (g) 3 番目 (a) 6 番目 (d)  
 (2) 1 番目 (b) 3 番目 (a) 6 番目 (g)  
 (3) 1 番目 (d) 3 番目 (b) 6 番目 (a)

## 【解説】

並び替えた文章は以下の通り。

- (1) He adored her beyond measure and her sudden death left him literally speechless for days afterwards.  
 (2) He was so overwhelmed with grief that when he himself went down with pneumonia a month or so afterwards, ~  
 (3) ~ but with no penicillin or any other magical antibiotic cures, pneumonia in particular was a very dangerous illness indeed.

3

- (A) This means you read books of several levels at the same time.  
 (B) また、もっとも基本的な数百単語は、日常会話で頻繁に使われているので、読者が会話やメールをするときにそれらの単語を再び使うことができる。

4

- (1) (b) (2) (d) (3) (d) (4) (c) (5) (a)

医学部受験専門予備校・医学部受験個別指導 medika tokyo medika osaka

東京 School 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-31-10 Tel:03-5412-6585 Fax:03-5412-1650

大阪 School 大阪府大阪市北区豊崎 2-5-25 Tel:06-6359-5399 Fax:06-6359-5405

## 【解説】

- (1) exclusive [叙述用法] (mutually exclusive で) 「(複数の話・考えなどが) 矛盾する・相容れない」 「投資する前に、あなたはローリスクとハイリターンはお互いに相容れないものであると理解しておくべきですよ」  
 (2) settle a dispute 「紛争を解決する」  
 (3) make a practice of Ving 「V することを習慣化する」  
 (4) see less of ~ 「~に以前よりも会わない」  
 (5) (b)は disgusting なら可。

5

- (1) 4 (2) 4 (3) 1 (4) 3 (5) 1

## 【解説】

- (1) exhaustive を exhausted に修正。  
 (2) nail は他動詞で、「~をくぎで打ちつける」。また、unawares は副詞で「前触れもなく・だしぬけに」

訳：「私をだしぬけにつかまえた通りのあつかましい靴屋は、私の靴のかかとを引きちぎり、新しいかかとを釘でうちつけた」

- (3) injuring を injured に修正。「傷・怪我」系の動詞は原則、他動詞なので注意。hurt, damage, injure など。本問では「傷つけられた自転車の運転手」→「傷ついた自転車の運転手」 \*和訳の時には自動詞のように訳す方が自然。

- (4) while は接続詞なので後ろは節 (S+V~の形) が続く。主語+be 動詞が省略され、名詞だけが while の後ろに残る場合もあるが、それは省略される S が主節の S と一致している場合。本問では意味的におかしいので while は不可。during か in

medika で合格目指そう！！

medika

Yahoo!で検索

medika

検索

に修正する。

(5) このままでは意味が通らない。enable を unable に修正。主節の前に分詞構文が来ている。「病気の原因を特定できなかったため、そのかかりつけ医は専門家の助言を仰がなければならなかった」

6

- (1) (a)      (2) (c)      (3) (c)      (4) (d)      (5) (b)  
 (6) (d)      (7) (d)      (8) (b)      (9) (b)      (10) (b)

【解説】

(1) be up to ~ 「①~の責任だ・~の意思しだいだ ②~ (主に what) を企てている」

(2) 訳「あなたがここに来てから、少なくとも1年になるはずですよ」

(3) give O a hand 「Oに手を貸す」

(4) jump in the lake 「(通例命令文で) 出て行け、邪魔するな」

本問では口語的な使い方をしている。意味は「私の意見を言わせてもらえれば、彼らはいなくなってもいいんじゃないかな」go jump と動詞が二つ続いているのは書き言葉の文法からするとおかしいが、口語では存在する。

例: Hey, why don't you come join us for a drink! 「こっちに来て僕らと一緒に飲まない?」

(5) burglar 「泥棒」の意味が分かれば容易。

(6) 「君はどうだか知らないけど、僕は馬を食べられるくらいお腹が空いているよ」 実際には馬一頭を食べられるわけがないので、仮定法の could を

使う。

(7) get through to ~ 「~に電話連絡する・電話が通じる」

(8) there is no hope for you 「あなたには見込みがない」 “If you can't get this right.” の部分は、文脈がなく this の内容が特定できないので解釈は難しい。本番ではこのような強引な作りの問題も多い。割り切って先に進むこと。

(9) make head or tail of ~ 「~を理解する」 rubbish 「ごみ・がらくた」

本文の訳は「これは理解できない。全くのがらくただね。」

(10) deaf 「耳が聞こえない・耳が遠い」 deaf の前の that は副詞「そんなに・それほど」

\*6では口語上の慣用表現ばかりが問われており、知らなければどうしようもない。(3)(5)(6)(7)(10)といった頻出表現を確実に正答すれば十分。

7

- A. 2      B. 4      C. 4      D. 3      E. 4

講評

出題はほぼ例年通り。過去問演習を重ねていた生徒は違和感なく取り組めたであろう。(毎年、6で出題されていた会話文は姿を消したが、結局今年の6で問われている項目は会話で使う口語表現である。) 難易度も例年通り高く、英語の得意な一部の受験生を除けば、あまり大きな差がつかないような設問構成と言える。6割台の得点でも1次突破ラインは超えるだろう。